

(様式1)

## 令和元年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)  
富山県花総合センター 農産食品課

2 施設所在地  
砺波市高道46-3

3 施設設置年度  
昭和62 年度

4 設置目的  
県民に花の栽培技術及び活用方法その他花に関する情報を総合的に提供し、もって県内における花の生産の拡大と県民の花に親しむ意識の高揚を図る。

5 施設概要  
主な施設  
・本館：鉄筋コンクリート2階建 775.4m<sup>2</sup>  
・展示温室：鉄骨造2階建 501.41m<sup>2</sup>  
・作業管理棟：鉄骨造平屋建 236.03m<sup>2</sup>  
・栽培温室：鉄骨造平屋建（4棟） 453.6m<sup>2</sup>  
・モデル化花壇 10面 1,031m<sup>2</sup>

6 指定管理者  
公益財団法人砺波市花と緑と文化の財団

7 指定期間  
5 年  
平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日

### 8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

H27	H28	H29	H30	R1
90,685	91,340	96,900	100,700	100,500

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

H27	H28	H29	H30	R1
701	506	785	1,109	1,130

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

H27	H28	H29	H30	R1
-	-	-	-	-

## 9 評価項目

### (1) 利用者数・収入の増減に対する評価

・報道関係やホームページなどを通じて園内開花情報の発信に努めたものの、新型コロナウイルス感染拡大により団体での来園が減少したため、全体として来園者は平成30年度よりやや減少した。(△2%)  
・平成30年度と比較して、会議室利用の小規模な講座の需要が減少したため使用料収入は減少、一方でビオラ等花壇苗やスイセンなどの生産物売払収入が増加。増加分が減少分を上回ったため、平成30年度より収入はやや増加した。

### (2) サービス向上に向けた取組み

・「生産者から学ぶ」と冠したオープン講座(年5回)を実施。  
・花まつり期間に、生産者による花苗の販売と寄せ植え体験等を実施し、栽培のコツを直接指導するなど生産者と消費者の交流の場を設けた。

### (3) 利用促進(収入増)に向けた取組み

・既存の講座に新たな研修講座を加え、園芸講座を年48回開催した。  
・本館展示ホールにて、チューリップフェアの期間に合わせた特別展示や花まつりのほか、季節ごとのテーマを設け、1年間に9回の展示を実施した。  
・年間の催し物案内と花ごよみを記載したパンフレットを作成し、花まつりや季節展示について各機関を通して広くPRするとともにHPやブログ等で随時見ごろの花やイベントの告知を行った。

### (4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

#### ① アンケート結果

実施方法	実施期間：通年 実施方法：本館1階ホールにアンケートコーナーを設置し、記載者に花の種等プレゼントを準備。
回答者数	103人
結果	「良かった」が81件、「まあ良かった」が16件と全体の約94%以上を占めた。
結果を踏まえた改善事項	市との連携を継続し、生産者と消費者とを結びつける架け橋的役割を引き続き担うとともに来園者の憩いや癒しの場となるよう、園内の整備に今後とも努める。

#### ② その他利用者の声を反映させる取組み

ホームページの問い合わせメール

#### ③ 主な苦情と対応

無し

### (5) 個人情報保護の取組み

講座の受講者等の個人情報は厳重に管理している。

(6) 関係団体との連携

・「砺波チューリップ公園」、「チューリップ四季彩館」や「砺波市美術館」、「砺波市観光協会」、「道の駅砺波」等と連携し、パンフレット設置について協力を得たほか、「園内ぐるり会」での情報交換を実施。  
・「チューリップ四季彩館」と、チューリップフェア共催企画として「おやゆび姫」と題し、アンデルセン童話「おやゆび姫」の世界を春の花々で表現する特別展示を行った。  
・各種イベント等には、地元の保育所や幼稚園児を招待して花を使った体験教室を実施し、地域住民との交流を図りつつ幼少期から花に親しむ機会を提供した。

(7) 施設・設備の維持管理

適切に管理されている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

警備保障会社への再委託により防犯、火災、設備監視等を適切に実施している。

10 所管課の管理運営確認状況

- ① 定期報告の受理
- ② 維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③ 個人情報に関するトラブルの有無
- ④ 危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有／無	回数(有の場合)
有	12
有	5
無	-
無	-

【トラブルの具体的内容と対応】

無

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

新規来園者の来園が増加しておらず、また40歳以下の若年層の来園者が減少傾向にあることから、これらを対象としたより積極的な情報発信(SNSの活用)に努めるとともに、現時点で大半を占める高齢者の来園者に係る安全な施設環境を提供するため、植栽や園路の整備を引き続き推進していく必要がある。